

中小零細企業の経営実態は深刻、一時も早く支援を 新潟県商工団体連合会が上越市に対して要請行動

県内の中小企業は全企業の約9割。この1年間に仕事は減る、負債は増える、消費税は転嫁できないことなどから経営は一段と厳しくなっています。

そうしたなかで新潟県商工団体連合会のメンバー5人が5日、市役所を訪れ、同連合会が調査した実態調査結果などを紹介しながら、①小規模事業者・中小零細企業の実態調査、②「中小企業・経済振興条例（仮称）」の制定、③小規模事業者・中小零細企業の実態にそった支援策の立案・実施を求めました。

同連合会が紹介した調査は、今年の9月から10月にかけて取り組んだ中小業者における「経営実態調査」です。それによると、「昨年同様に比べ収益は減った」が70%、「今後の見通し悪くなる」が56%、「消費税転嫁できていない」が63%。深刻な実態が浮き彫りになっていました。回答は1027業者といっています。

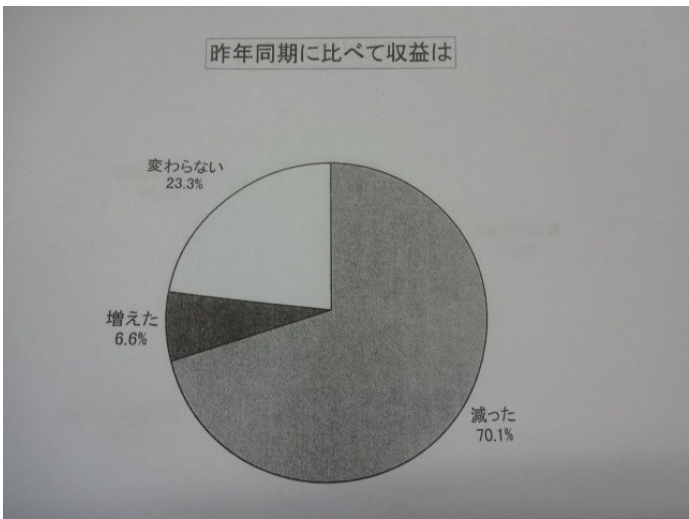
市側からは秀沢産業観光部長、米持産業振興課長などが応対し、「議会でも意見をいただきたいが、小規模事業者さんの実態はつかみきれない。今年度に向けて前向きに考えていきたい」「条例検討の前にまずは市として中小企業の振興の在り方、どういう支援がいいのかなどニーズ把握に努めたい。そして実効性のある取り組みをしていきたい」などと答えていました。市が実態調査に踏み出す等、積極的な姿勢を示したので、今年度の取り組みがどう組み立てられていくのか注目です。

中山間地対策特別委が浜松市天竜区等を視察、地域づくり学ぶ

中山間地対策特別委員会（委員長は私）は先月31日、今月1日と浜松市の中山間地対策を視察してきました。

1日は、中山間地域、天竜区で頑張っているNPO法人、「夢未来くんま」を訪ねてきました。同法人は平成12年に設立された特定非営利活動法人ですが、昭和の40年代から地域おこしの活動をやってきた婦人会など女性陣の奮闘がありました。他に先駆けた農産加工や文化活動などは高く評価され、平成元年には農林水産祭の農林水産大臣賞、天皇賞を受賞しています。

この日はその活動の中心



になっていた二人の女性、副理事長の金田さんと副理事長兼事務局長の大平さんから案内していただき、これまでの取り組みについて学んできました。

お二人の話を聴いて思ったのは、地域おこしにかけける情熱です。農産加工、農家民宿、自然学習、文化活動などいづれも全力を挙げて、粘り強く活動を続けてきたことが分かりましたが、その根底には「夢未来くんま」が大事にしている「豊かさ」「優しさ」「楽しさ」の追求があるなと思いました。この法人は全戸加入ですが、組織的にも、みんなが助け合って楽しく活動できる仕組みづくりを重視していることもわかりました。

改めて中山間地域を活性化させていくには持続的な組織が大切だということがわかりました。視察が終わろうという頃、駐車場に見たことのない車が停まっていました。農協の移動金融窓口専用車（写真）です。農協の金融窓口が近くにない地域を1週間に一度まわり、お金の出し入れが出来るようにしているのだそうです。キャッシュカードを使えない人たちにとってはたいへん喜ばれているということでした。こんな配慮は中山間地で必要だと思いました。



【ミソソバ】漢字で「溝蕎麦」と書きます。タデ科の一年草。花言葉は「純情」です。白にピンクがかかった小さな花はかわいさいっぱい。私はこの花よりも葉の方が好きです。葉は牛の顔にそっくりなのです。吉川区代石にて6日撮影。

4日は
第9回大
島音楽祭
でした。

「一人ひとりが主役、楽しい手づくり音楽祭です」
そう言った実行委員長の

の言葉通りの音楽祭で、とてもよかったです。保育園の子どもから80代の大人まで、素敵な服装をして、一杯歌を歌う、演奏する。私の隣に座っていたお母さんが、突然、上着を脱ぐと、その下にはピンクのシャツが……。このお母さんにも大正琴の出番がやってきたのでした。私の前の席の新聞屋のお母さんは、歌が始まるといつも口ずさみ、体をゆすっていまし



私の高校時代の恩師や議員の仲間もいましたよ。歌を歌ったり演奏した人たちと司会、指揮者、観客、裏方さんなど、みんながひとつになつて楽しい音楽祭をつくりあげていたと思います。

た。「上越市民の合唱」の合観客も一緒に。もちろん私も歌いました。舞台上に人が

中山間地対策特別委員会（委員長は私）は先月31日、1日と浜松市の中山間地対策を視察してきました。

1日は、中山間地域、天竜区で頑張っているNPO法人、「夢未来くんま」を訪ねてきました。同法人は平成12年に設立された特定非営利活動法人ですが、昭和の40年代から地域おこしの活動をやってきた婦人会など女性陣の奮闘がありました。他に先駆けた農産加工や文化活動などが高く評価され、平成元年には農林水産祭の農林水産大臣賞、天皇賞を受賞しています。この日はその活動の中心になっていた二人の女性、副理事長の金田さんと副理事長兼事務局長の大平さんから案内していただき、これまでの取り組みについて学んできました。



【ミソソバ】漢字で「溝蕎麦」と書きます。タデ科の一年草。花言葉は「純情」です。白にピンクがかった小さな花はかわいさいっぱい。私はこの花よりも葉の方が好きです。葉は牛の顔にそっくりなのです。吉川区代石にて6日撮影。

中山間地対策特別委、浜松市天竜区を視察

自然学習、文化活動などいずれも全力を挙げ、粘り強く活動を続けてきたことが分かりました。その根底には「夢未来くんま」が大事にしている「豊かさ」「優しさ」「楽しさ」の追求があるなど思いました。この法人は全戸加入ですが、組織的にも、みんなが助け合つて楽しく活動できる仕組みづくりを重視していることもわかりました。改めて中山間地域を活性化させていくには持続的な組織が大切だということがわかりました。

視察が終わろうという頃、駐車場に見たことのない車が停まっていた。農協の移動



橋爪のりかずの
市政レポート

NO 1630
2013.11.10

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 025-548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

左記の電話が通じない時、こまった時は橋爪法一の携帯電話へ
090-5392-1961

何故なんでしょうね、無性に山芋掘りがしたくなりました。山々の紅葉が進み、黄色くなった山芋の葉が目に入るようになってから、二〇年ほど前に掘った時のイメージがふくらんできて消えなくなっていました。

激しい雷雨がやってきた日の翌日、青空が広がって絶好の芋掘り日和になりました。「よしっ、きょうこそは芋掘りに行こう」と決意しました。幸いこの日は午後から山に入る時間を一、二時間は確保できそうでした。せっかくですから、中山間地の暮らしたに強い関心を持って三〇代の青年、Sさんも誘いました。

私が山芋掘りに行きたいと思ってイメージした山は、吉川の支流、釜平川のそばにある雑木林の土手でした。ここはかつて二時間ほどの間に次から次へと山芋を掘り、十本ほど掘った記憶のある場所です。山すそで適度な傾斜あり、一本掘るとすぐそばにまたツルがある、そんな感じで掘ったことが頭の中にしっかりと残っていました。

二人で釜平川を渡り、めざした山に向かつて歩きはじめると、誰かが草藪を払いながら歩いた跡があります。「こりや、先客かも知れないね」そう言いながら、目的地に着くと、案の定、芋掘りをしたばかりの跡がありました。五、六本は簡単に掘れるはずだという目論見は完全に外れてしまいました。しかも木の根がたくさん張っていて、岩もごろごろしていたため苦戦しました。結局、当初予定した場所では一本掘るのがやっとでした。川の対岸にも山芋のツルがたくさんあったので、そこでも挑戦しましたが、石や木の根がじゃましていて、ちよつと掘っただけで断念しました。

二百メートルほど下流の土手に場所を替えて、再び芋掘りを始めたのは午後四時半過ぎでした。

山芋のツルを確認して掘りは始める直前、リンドウの花が咲いていることに気づきました。花は一本や二本ではありませんでした。数か所で群生していたのです。「うれいねえ、こんなところでリンドウの花と咲いているなんて。励まされるよ」そう言ってSさんに伝えました。リンドウの花との出会いは幸運を予感させてくれました。

唐鍬（とうが）で掘りはじめてからじきに、土の匂いととも芋の匂いもしてきました。ここは土も柔らかいし、岩や石もほとんど出てきませんでした。ある程度掘り進み、山芋が下に伸びていることを確認したところで、Sさんと交代しました。Sさんは山芋掘りは初めてです。「あまり、芋のそばを掘っていいじめないようにね」とアドバイスして、私は別のツルを探しに歩き始めました。

二、三分たったころだったでしょうか、いままで掘っていた場所から、「おーっ」という声が二度も聞こえてきましたので、私も戻ると、芋の周辺の土がどかされ、見事な山芋の姿が浮き彫りになっていました。しかも、芋は一本ではなく、二本だったので、私も、「おーっ」という声を何度も上げてしまいました。

この日の収穫は芋の先っぽのところまでまともに掘れたのが二本、中途半端に終わったのが三本でした。当初想定したほど掘れませんでした。それでも山芋掘りのときの、わくわくする気分は味わうことができました。Sさんも、「いやー、山芋掘りがこんなにもたいへんだとは……。でも楽しかったです」と笑顔でした。

Sさんは週末、お連れ合いと子どもと一緒に自分も掘った山芋を見せて一緒に食べるのだそうです。私はいうまでもなく「いもじり」です。あつ、もう、口のまわりが何となくかゆくなってきました。

吉川、大島等で音楽、芸能などの楽しいイベント相次ぐ

吉川区の芸能発表会は3日、多目的集会場で行われました。

吉川中学校吹奏楽部がオープニングで「RPG」「恋するフォーチュンクッキー」を演奏した後、大正琴、オカリナ、舞踊、レクダンス、

コーラス、朗読、詩吟グループが



頃の練習の成果を発表しました。オカリナを演奏していた倉茂さん夫婦は又嘉さんが背筋を伸ばしてほとんど動かずの姿勢で、澄子さんは右足を後ろにちよつと引き、肩でリズムをとるかたちで参加されていました。このほか木村さんも夫婦参加でした。いいもんですね。歌や演奏で3回も登場したのは、大ブレイクしている「花は咲く」です。何度聴いても心に響きます。

4日は大島音楽祭でした。「一人ひとりが主役、手づくり音楽祭です」そう言った実行委員長さんの言葉通りの音

楽祭でした。保育園の子どもから80代の大人まで、素敵な服装をして、精一杯歌を歌う、演奏する。私の隣に座っていたお母さんが、突然、上着を脱ぐと、その下にはピンクのシャツが……。このお母さんにも大正琴の出番がやってきたのでした。私の前の席の新聞屋のお母さんは、歌が始まるといつも口ずさみ、体をゆすっていました。「上越市民の歌」の合唱では、観客も一緒に。歌を歌ったり演奏した人たちと司会、指揮者、観客、裏方さんなど、みんながひとつになって楽しい音楽祭を作りあげていたと思います。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月30日(水)	11月6日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.050	0.053
新井消防署	0.040	0.057
頸北消防署	0.056	0.053
頸南消防署	0.040	0.043
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.040	0.050

何故なんでしょうね、無性に山芋掘りがしたくなりました。山々の紅葉が進み、黄色くなった山芋の葉が目に入るようになってから、二〇年ほど前に掘った時のイメージがふくらんできて消えなくなっていました。

激しい雷雨がやってきた日の翌日、青空が広がって絶好の芋掘り日和になりました。「よしっ、きょうこそは芋掘りに行こう」と決意しました。幸いこの日は午後から山に入る時間を一、二時間は確保できそうでした。せっかくですから、中山間地の暮らしたに強い関心を持っている三〇代の青年、Sさんも誘いました。

私が山芋掘りに行きたいと思ってイメージした山は、吉川の支流、釜平川のそばにある雑木林の土手でした。ここはかつて二時間ほどの間に次から次へと山芋を掘り、十本ほど掘った記憶のある場所です。山すそで適度な傾斜あり、一本掘るとすぐそばにまたツルがある、そんな感じで掘ったことが頭の中にしつかりと残っていました。

二人で釜平川を渡り、めざした山に向かつて歩きはじめると、誰かが草藪を払いながら歩いた跡があります。「こりや、先客かも知れないね」そう言いながら、目的地に着くと、案の定、芋掘りをしたばかりの跡がありました。五、六本は簡単に掘れるはずだという目論見は完全に外れてしまいました。しかも木の根がたくさん張っていて、岩もごろごろしていたため苦戦しました。結局、当初予定した場所では一本掘るのがやっとでした。川の対岸にも山芋のツルがたくさんあったので、そこでも挑戦しましたが、石や木の根がじゃましていて、ちよつと掘っただけで断念しました。

二百メートルほど下流の土手に場所を替えて、再び芋掘りを始めたのは午後四時半過ぎでした。

山芋のツルを確認して掘りは始める直前、リンドウの花が咲いていることに気づきました。花は一本や二本ではありませんでした。数か所で群生していたのです。「うれしいねえ、こんなところでリンドウが咲いているなんて。励まされるよ」そう言っ

てSさんに伝えました。リンドウの花との出会いは幸運を予感させてくれました。唐鍬（とうが）で掘りはじめてからじきに、土の匂いととも芋の匂いもしてきました。ここは土も柔らかいし、岩や石もほとんど出てきませんでした。ある程度掘り進み、山芋が下に伸びていることを確認したところで、Sさんと交代しました。Sさんは山芋掘りは初めてです。「あまり、芋のそばを掘っていいじめないうちにね」とアドバイスを、私は別のツルを探しに歩き始めました。

二、三分たったころだったでしょうか、いままで掘っていた場所から、「おーっ」という声が二度も聞こえてきましたので、私も戻ると、芋の周辺の土がどかされ、見事な山芋の姿が浮き彫りになっていました。しかも、芋は一本ではなく、二本だったので

す。私も、「おーっ」という声を何度も上げてしまいました。この日の収穫は芋の先っぽのところまでまともに掘れたのが二本、中途半端に終わったのが三本でした。当初想定したほど掘れませんでした。それでも山芋掘りのときの、わくわくする気分は味わうことができました。Sさんも、「いやー、山芋掘りがこんなにもたいへんだとは……。でも楽しかったです」と笑顔でした。

Sさんは週末、お連れ合いと子どもさんに自分も掘った山芋を見せて一緒に食べるのだそうです。私はいうまでもなく「いもじり」です。あつ、もう、口のまわりが何となくかゆくなってきました。

中小零細企業の経営実態は深刻、一時も早く支援を

県内の中小企業は全企業の約9割。この1年間に仕事は減る、負債は増える、消費税は転嫁できないことなどから経営は一段と厳しくなっています。

そうしたなかで新潟県商工団体連

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月30日(水)	11月6日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.050	0.053
新井消防署	0.040	0.057
頸北消防署	0.056	0.053
頸南消防署	0.040	0.043
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.040	0.050

合会のメンバー5人が5日、市役所を訪れ、同連合会が調査した実態調査結果などを紹介しながら、①小規模事業者・中小零細企業の実態調査、②「中小企業・経済振興条例（仮称）」の制定、③小規模事業者・中小零細企業の実態にそった支援策の立案・実施を求めました。

同連合会が紹介した調査は、今年9月から10月にかけて取り組んだ中小業者における「経営実態調査」です。それによると、「昨年同期に比べ収益は減った」が70%、「今後の見通し悪くなる」が56%、「消費税転嫁できていない」が63%。深刻な実態が浮き彫りになっていました。回答は1027業者といます。

市側からは秀沢産業観光部長、米持産業振興課長などが応対し、「議会でも意見をいただいているが、小規模事業

者さんの実態はつかみきれていないので新年度に向けて前向きに考えていきたい」「条例検討の前にまずは市としての中小企業の振興の在り方、どういう支援がいいのかなどニーズ把握に努めたい。そして実効性のある取り組みをしていきたい」と答えていました。市が実態調査に踏み出す等、積極的な姿勢を示したので、新年度の取り組みがどう組み立てられていくのか注目です。

今回の要請行動には日本共産党議員団から私と上野議員が同席しました。

